

精進と懈怠 (四十八ヶ条)

- 一、大信成就して、報謝の不行に余念なきを精進と言ひ、信心もなく念仏せぬを懈怠と言ふ。
- 二、仏、法、僧の三宝に絶対帰依して求道するを精進と云ひ、三毒煩惱に迫ひ廻はされるを懈怠と言ふ。
- 三、善知識を嫌い、同行に遠ざかるを懈怠と言ひ、善知識同行に親近してみ法を相続するを精進と言ふ。
- 四、広大無辺の恩徳を喜ぶを精進と言ひ、御恩を忘れて貪るを懈怠と言ふ。
- 五、得手勝手に法を聞いて、邪見憍慢を募るを懈怠と言ひ、法によつて我を知るを精進と言ふ。
- 六、大法を好まず、享樂ばかり求むるを懈怠と言ひ、何よりも御法を楽しむを精進と言ふ。
- 七、無我に生きるを精進と言ひ、我慢で貫くを懈怠と言ふ。
- 八、真実に生きるを精進と言ひ、虚偽に躍るを懈怠と言ふ。
- 九、仏法の讚嘆に口を使うを精進と言ひ、いらぬ悪口雑言、世間話に口を使うを懈怠と言ふ。
- 十、五欲に時間を使ふを懈怠と言ひ、行住坐臥を念仏に使はれるを精進と言ふ。
- 十一、仏の御冥見を恥ぢ、御冥加を喜ぶを精進と言ひ、世間の人目のみゴマ化すを懈怠と言ふ。
- 十二、仏法を主とし、世間を客人とするを精進と言ひ、世間を主として、仏法を上げ下げして弄ぶを懈怠と言ふ。
- 十三、世間、名利の奴隸となり、人におとるまじきと思うを懈怠と言ひ、仏の御前に名を挙げるを精進と言ふ。
- 十四、大法のために自己を捧げるを精進と言ひ、我欲によつて自己を惜しむを懈怠と言ふ。
- 十五、善知識の言葉を受け取らず、悪事を捨てぬを懈怠と言ふ。教えの通りに、捨つべきを捨て、取るべきを取るを精進と言ふ。
- 十六、念仏中心の生活を成就するを精進と言ひ、貪欲中心に働くを懈怠と言ふ。
- 十七、自信教人信、自行化他に生かされるを精進と言ひ、自損々他に生きるを懈怠と言ふ。
- 十八、常行大悲に生かされるを精進と言ひ、常に怒るを懈怠と言ふ。
- 十九、柔和忍辱、歡喜踊躍、いつもニコ／＼するを精進と言ひ、灰色に愚痴のみ言うを懈怠と言ふ。
- 二十、よいものを衣、美味しいものを喰ふことばかり考えるを懈怠と言ひ、御恩を衣食うを精進と言ふ。
- 二十一、先の希望幻を追うて現在がぬけているのを懈怠と言ひ、今の今現在の有難さに覚めて生かされるを精進と言ふ。

二十二、内の空虚に気がつかず外へ外へと歩むを懈怠と言ひ、内へ内へと内にかえるを精進と言ふ。

二十三、一心の相を精進と言ひ、二心三心、悪雑に生きるを懈怠と言ふ。

二十四、清浄の願往生心に生きるを精進と言ひ、貪瞋二河に溺れるを懈怠と言ふ。

二十五、金剛不壊、一道を執つてたじろがざるを精進と言ひ、群賊悪獣になれ親しんで、二道三道を歩むを懈怠と言ふ。

二十六、如実修行の相続するを精進と言ひ、途中でやめるを懈怠と言ふ。

二十七、得たくと独覺心になるを懈怠と言ひ、合掌求道してやまぬを精進と言ふ。

二十八、他人の世話ばかりして、我を棚に上げるを懈怠と言ひ、他人の上にも我が相を知るを精進と言ふ。

二十九、会うこと見ることが善知識になり、信心の深まるを精進と言ひ、何に会つても、貪欲で受けるを懈怠と言ふ。

三十、足らぬくで生きるを懈怠と言ひ、御恩に満足し、感謝して生きるを精進と言ふ。

三十一、苦悩に出会えば逃避し、自暴自棄するを懈怠と言ひ、苦悩に随順して、忍終不悔の一道を歩みきるを精進と言ふ。

三十二、途中から横に掘るを懈怠と言ひ、どこまでも深く徹するを精進と言ふ。

三十三、御聖教を拝読しても、何の味もないのを懈怠と言ひ、仏典の一字一字が生きた仏と有難く尊く頂戴出来るを精進と言ふ。

三十四、朝夕の聖勤は心から出来ず、雑談するには時を忘れるを懈怠と言ひ、仏前が2親しまれるを精進と言ふ。

三十五、毎日くの生活が味気ないのを懈怠と言ひ、「明日はない。」と知つて今日の一切を一期一会と心得て生きるを精進と言ふ。

三十六、念仏を唯一絶対、一仏乗と信知するを精進と言ひ、念仏と外のものを並べて生きるを懈怠と言ふ。

三十七、煩惱の気に入る、賞讃や甘やかしは喜んで受け取つて、苦い忠言は受け取るまいとするのを懈怠と言ひ、壁や柱にさへ耳をよせて、自己の悪や欠点を知ろうとするを精進と言ふ。

三十八、全我を挙げて輝き生きるを精進と言ひ、頭や手が別々々に、ものを手先や、口先でするを懈怠と言ふ。

三十九、我慢貪欲で、奮闘するを懈怠と言ひ、寂靜無為の樂に通うて生かされる静かな生活を精進と言ふ。

四十、善人と思ひ賢者と自惚れて高慢に人のみ裁いて生きるを懈怠と言ひ、大愚大悪に徹しきるを精進と言ふ。

四十一、仏法に底を入れて膏手になり商賈道具にするを懈怠と言ひ、餓死をも覚悟して大法に生きるを精進と言ふ。

四十二、「聞く時はきこそ、くと思へども、その場を去ればあとかたもなし。」若存若亡、ふらふらするを懈怠と言ひ、山の中に独りでいようと憶念するを精進と言ふ。

四十三、悪知識に親近して慧命をつみきられるを懈怠と言ひ、無碍の一道に育ち上るを精進と言ふ。

四十四、世の中の晴の中心となるを懈怠と言ひ、家庭、社会の光の中心となるを精進と言ふ。

四十五、人の仏造成就の邪魔となり、掟婆の役目をするを懈怠と言ひ、念仏三昧になりきつて仏法弘通に役立つを精進と言ふ。

四十六、仏法を学んで、世間の肩書の為にするを懈怠と言ひ、心を仏法に修めるを精進と言ふ。

四十七、仏法の誠なることを、身をもって蘇はすを精進と言ひ、仏法に傷をつけるを懈怠と言ふ。

四十八、一念の信力よく、三世十方に徹賞して、諸仏請書薩の護念讚まことに生かされるを精進と言ひ自力疑心悪業自然に生きて、如来聖人の御冥見に漏れ、六道に輪廻するを懈怠と言ふ。